

事業番号

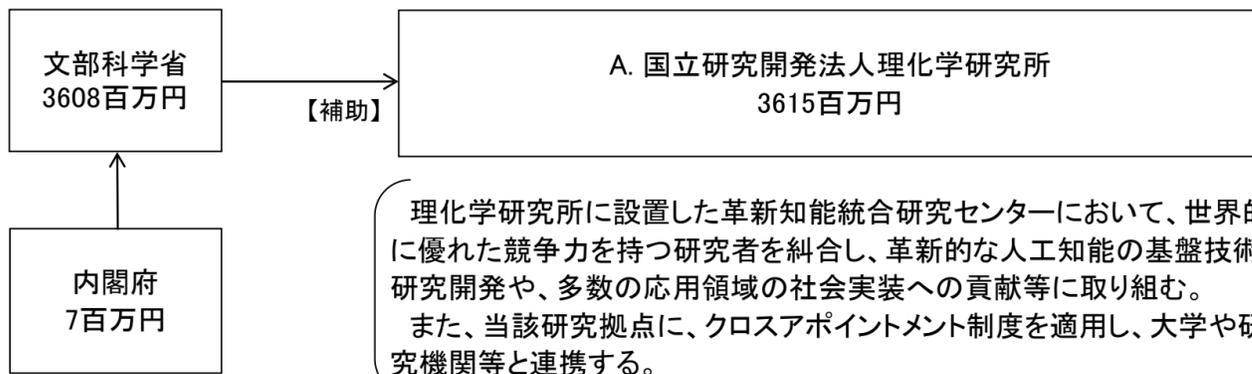
2023 - 文科 - 22 - 0258

令和5年度行政事業レビューシート		(文部科学省)					
事業名	AIP:人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト(次世代人工知能技術等研究開発拠点形成事業費補助金)		担当部局	研究振興局	作成責任者		
事業開始年度	平成28年度	事業終了(予定)年度	令和7年度	担当課室	参事官(情報担当)	参事官(情報担当) 嶋崎 政一	
会計区分	一般会計						
根拠法令(具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)等			
政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化		主要経費	科学技術振興費			
施策	8-3 オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-05.pdf						
事業の目的(5行程度以内)	世界をリードする革新的な人工知能基盤技術を構築する。現在の人工知能技術では高度に複雑・不完全なデータに対応できず、幅広い分野に適用可能な統合基盤技術を実現する。また、第6期科学技術・イノベーション基本計画や政府全体の戦略である「AI戦略」(令和元年6月統合イノベーション戦略推進会議決定)に基づき、関係府省と連携して人工知能技術の研究開発・社会実装に向けた取組を推進する。						
現状・課題(5行程度以内)	2010年以降、世界的に人工知能(AI)の有効性が認知され、社会の様々な分野への適用への期待が高まり、我が国でもイノベーションニーズが高い状況にある。一方で、現在のAIには脆弱性、信頼性、学習コストの問題や、未知事象への対応が困難であるという問題も顕在化しており、社会実装の推進にあたっては、「信頼されるAI」の技術ニーズが高まっており、次世代AIの基盤技術の確立が急務である。また、世界的なAI研究開発の動向としては、AIの国際学会の採択数では概ね、米国がここ10年ほど世界1位をキープし、さらに中国が急激に採択数を伸ばし、米国に迫っている一方、我が国全体では第3位グループにとどまっている。今後我が国がAIの社会実装にあたっては、世界的な標準化の流れの中で主導権を握るために、新たなAI研究開発の世界的な潮流を創出し、先導していく必要がある。						
事業概要(5行程度以内)	未来社会における新たな価値創出の「鍵」となる、人工知能、ビッグデータ、IoT、サイバーセキュリティについて、「理研革新知能統合研究センター(AIPセンター)」に世界最先端の研究者を糾合し、革新的な基盤技術の研究開発や我が国の強みであるビッグデータを活用した研究開発を推進するとともに、関係府省等と連携することで研究開発から社会実装までを一体的に実施する。						
事業概要URL	https://aip.riken.jp/?lang=ja						
実施方法	補助						
補助率等	補助率:定額						
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	320.3	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	316	413.9	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	▲316	▲413.9	▲55	-	-
		予備費等(E)	7	7	7	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	2,940	3,478.4	3,614.9	3,249	3,249
		執行額(G)	2,940	3,478.4	3,614.9	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	100%	100%	100%	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	90%	97%	111%	-	-
		歳出予算項・目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
		(項) 研究振興費			予備費等に計上された金額は内閣府のPRISM事業による移し替えであり、関係各省事業と連携して、創業ターゲット推定アルゴリズムの研究開発を推進 「重要政策推進枠」:487百万円		
(目) 次世代人工知能技術等研究開発拠点形成事業費補助金	3,249	3,249					
その他	0	0					
計(A)	3,249	3,249					

活動内容① (アクティビティ)	理化学研究所に世界最先端の研究者を糾合するAI研究拠点を設置する。									
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	AIに関する理論研究を中心とした革新的な基盤技術の研究開発を行う。	研究グループ数	活動実績	-	3	3	3	3	-	
当初見込み			-	3	3	3	3	3		
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	効果発現の初期段階として、まずは、理研AIPセンターの各グループにおける研究活動の継続的な取組によって成果が創出されることが考えられるため、論文数・学会発表数を指標とし、研究成果創出を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度		
	研究成果を継続的に創出	情報科学技術分野における研究開発の論文数、学会発表数(単年度)	成果実績	数	459	382	697	-		
			目標値	数	1,100	1,100	500	1,000		
達成度	%	41.7	34.7	139.4	-					
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	事業実施者より聴取									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	研究成果を継続的に創出することで、世界をリードする人工知能基盤技術の構築に繋がると考えられるため、理研AIPセンターの成果に基づく新たな人工知能基盤技術の数を長期アウトカムとして設定した								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7年度		
	次世代の新たな人工知能基盤技術を開発	AIPセンターの研究成果に基づき開発された、次世代の新たな人工知能基盤技術の数(累計)	成果実績	件	0	2	5	-		
			目標値	件	0	1	3	9		
達成度	%	-	200	166.7	-					
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	事業実施者より聴取									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									

活動内容② (アクティビティ)	理化学研究所に世界最先端の研究者を糾合するAI研究拠点を設置する。									
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	AIIに関する理論研究を中心とした革新的な基盤技術の研究開発を行う。	研究グループ数	活動実績	-	3	3	3	3	-	
			当初見込み	-	3	3	3	3	3	
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	効果発現の初期段階として、まずは、企業や他研究機関との共同研究によって、社会課題の解決等に繋がる研究成果が創出されることが考えられるため、共同研究の参画機関数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 7年度		
	企業や研究機関との共同研究を推進	共同研究の参画研究機関数	成果実績	機関	70	74	75			
			目標値	機関	70	100	70	70		
達成度			%	100	74	107.1	0			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	事業実施者より聴取									
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	共同研究の参画研究機関数が増加することで、AI技術の実社会での活用に繋がると考えられるため、AIPセンターの研究成果に基づき実社会での実証実験に至っている案件数を長期アウトカムとして設定した								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7年度		
	AI技術を実社会で活用するため、研究成果を様々な分野で活用	AIPセンターの研究成果に基づき実社会での実証実験に至っている案件数(累計)	成果実績	件	1	3	5			
			目標値	件	2	3	4	10		
達成度			%	50	100	125	0			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	事業実施者より聴取									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	統合イノベーション戦略2022								
	URL	https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/togo2022_honbun.pdf								
	該当箇所	P33								

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



理化学研究所に設置した革新知能統合研究センターにおいて、世界的に優れた競争力を持つ研究者を糾合し、革新的な人工知能の基盤技術の研究開発や、多数の応用領域の社会実装への貢献等に取り組む。
 また、当該研究拠点に、クロスアポイントメント制度を適用し、大学や研究機関等と連携する。

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.			B.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	研究員、研究補助者等	1,759.2			
事業実施費	賃料、役務、ソフトウェア外注費等	1,409.8			
設備備品費	研究機器購入等	445.9			
計		3,614.9	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立研究開発法人理化学研 究所	1030005007111	上記「事業概要」欄に記載	3,615	補助金等交付	-	-	-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	